

令和4年度学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 定時制課程) s 32

目指す学校像	心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校 ～中学生に楽しさと憧れを！ 在校生に好奇心と自信を！ 卒業生に豊かさと誇りを！
重点目標	1 学習意欲と基礎学力の向上を図る。 2 基本的生活習慣の確立を図る。 3 自己の適性を知り、希望進路を実現する。 4 地域社会に開かれた学校づくりに努める。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	12名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					4 年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
4 年 度 目 標					4 年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 授業規律が保たれており、生徒が安心して学習する環境が整っている。 【課題】 基礎学力の定着を図り、学習に対して苦手意識を克服させる必要がある。	学習意欲の向上	①ICT及びBYOD環境の整備を継続すると共に、生徒の授業形態に対する意識調査を行う。それを踏まえて、本校の生徒の実態に応じた指導方法を研究できる研修会を実施する。 ②生徒一人ひとりの基礎学力の向上計画を検討する。長期休業課題・実力テストを通じ、生徒・教職員が正確に基礎学力を把握する。家庭学習の習慣化・成果と課題の見える化に加え、理解の定着化へ繋げる。	3学期(1月)生徒アンケートで「本校の授業の内容がよくわかった」「本校の授業を通じて、学習に対する意欲が向上している」が1学期(7月)より上昇したか。	【生徒アンケート結果より】肯定的な生徒は昨年度より4ポイント上がり、92%と83%で高い水準を保った。研修会を通じてICTのより実践的な活動・観点別評価について協議を行った。その他、積極的な授業参観・意見交換が年間を通じて見られた。結果ICTを用いた活動がより多くの科目や場面で実施された。	B	学習意欲の向上のために、ICT環境や授業形態に関して生徒の意識調査を行い、状況を把握する。それを活用し、更なる環境整備(1人1台端末の対応)と教職員の技術向上・活用法の拡大へ繋げる。また資格取得の推進を引き続き図る。
		生徒一人ひとりの基礎学力の向上	①SC/SSWとの連携の下、具体的な支援ケースの検討・対応方法の共有・蓄積を図る。生徒と保護者への相談窓口や支援情報の提供を積極的に行う。 ②出席状況に改善を要する生徒について、多角的に要因を分析する。結果を基に、家庭と連携しながら生活習慣や環境の調整を行う。	3学期(1月)生徒アンケートで「予習・復習等の家庭学習に取り組んでいる」が1学期(7月)より上昇したか。90%の生徒が課題の提出を行ったか。	【生徒アンケート結果より】「取り組んでいる」と回答した生徒は44%であった。継続的な家庭学習に対する意識の低下が見られた。一方で休業中課題は90%の生徒が提出したと共に、個票を通じたと全体へのフィードバックを実施した。	B	classroomを活用しながら、各授業の復習や定期考査へ向けた「継続的な家庭学習」に対する生徒意識の向上、習慣定着の取組・環境づくりを推進する。
2	【現状】 ルールを守り、何事に対しても真摯に向き合う生徒が多い。一方基本的生活習慣の未確立や環境調整能力の不足により、出席状況に不安定さが見られる。 【課題】 一人ひとりの生徒に対する具体的な支援と学校・家庭・外部機関等の専門家との連携の充実させる必要がある。	基本的生活習慣の具体的な把握及び確立を図る取組	①SC/SSWとの連携の下、具体的な支援ケースの検討・対応方法の共有・蓄積を図る。生徒と保護者への相談窓口や支援情報の提供を積極的に行う。 ②出席状況に改善を要する生徒について、多角的に要因を分析する。結果を基に、家庭と連携しながら生活習慣や環境の調整を行う。	①生徒・保護者に対する支援情報の提供回数が増加したか。生活習慣確立のための指導に満足しているか。 ②3学期(1月)生徒アンケートで「出席状況は良好で、遅刻・早退もしていない」が1学期(7月)より上昇したか。	SC/SSWとの連携の下、面談時など生徒と保護者への相談窓口や支援情報の提供を積極的に行った。 【生徒アンケート結果より】「していない」と回答した生徒は68%と7ポイント下がった。各年次と連携し、個々の要因を確認し、状況に応じたアプローチを行った。	B	多様な生徒の増加が想定されるため、生徒支援に関する委員会活動を強化し、SC/SSWと密な連携の下、具体的な支援ケースの検討・対応方法の共有・蓄積を図る。生徒がより自身の状況等を相談しやすい、支援しやすい環境を作る。
		5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を意識した規範意識の醸成	①5S活動(特に整理・躰)を心がける取組を行い、生徒・教職員でより充実した学校環境を作る。 ②人間性向上へ繋がる活動などより肯定的な生徒指導の充実を図る。	①5S活動について理解し、自ら取り組む意識が醸成されたか。 ②生徒指導案件は減少したか。	「整理」に関して職員室内の整理を始め、教職員から積極的に取り組み、生徒個人も物損等なく高い水準で取り組んだ。 生徒指導の件数は0件だった。	B	5S活動における教職員及び生徒の意義や知識・理解を深めるための指標作成や対話活動を検討する。自己表現など生徒の人間性向上や社会へ繋がる活動等、より肯定的な指導の充実を引き続き図る。
3	【現状】 自分の適性が正確にわからず、進路の目標を見出せない生徒が多い。 【課題】 生徒の発達段階と適性に応じた進路目標を設定し、実現させる必要がある。 自身の進路を考える上での十分な情報と経験する機会を提供する必要がある。	発達段階と適性に応じた進路目標の設定	①キャリア教育を充実させ、発達段階に応じた進路目標の設定し、継続的な指導を行う。 ②自身の進路を考える機会の増加に向けて、進路ガイダンスに加えて、積極的な外部と連携を図る。	①進路アンケートで年次ごとに、自分の適性、能力を把握できたか。「卒業後の進路」が「決まっていない」の生徒が20%以下を継続できたか。 ②就職での業種区分及び進学での専攻分野を理解できたか。	【進路アンケート結果より】「決まっていない」と回答した生徒が23.4%であった。一方でマイスター・ハイスクール事業を中心に年間で複数の企業と連携を図り、講演会等を通じて積極的に全年次への情報提供を行った。	B	3年次終了の段階で「決まっていない」と回答する生徒割合で20%以下を目指す。行動特性調査や各アンケート、外部から得た情報を活用して、生徒が自身と向き合い、進路を深く考える機会を増やす。
		進路決定率100%の継続	①適切な情報や経験を提供できる機会(LHR等)を充実させると共に、発達段階に応じた社会人基礎力の育成に取り組む。 ②進路実現に向けて就職者・進学者へ計画的な補習等の指導を実施する。	①課題研究・授業・LHRを含め、社会人基礎力を育成する機会を複数回設けられたか。 ②進路決定率100%が実現できたか。	各年次の発達段階に応じた社会人基礎力の育成計画を概ね設定した。SST・社会体験・課題研究・各LHR等で焦点を当てた活動を実施した。2月14日現在で、1名を残して卒業見込生徒の進路が確定している。	B	自身の特性ややりたいことを発見できない生徒へのアプローチ方法を検討する。卒業生との対話を取り入れる等、就職や進学が身近に感じられる適切な情報・経験を提供できる機会を提供する。
4	【現状】 情報発信を継続することで、地域との連携が育ちつつある。 【課題】 現在の情報発信の内容や方法を充実させる。加えて、より広い範囲の地域への情報発信を行う必要がある。	積極的な学校情報の発信	①授業風景を始めとした普段の学校生活など「今必要とされている情報」をより正確に捉え、HPの安定的な更新・学校紹介ページの充実を行う。 ②従来の地域に加え、より多くの自治体・公民館等へ発行物の配付を行う。本校での生徒の成長状況を各中学校へ伝えるより具体的な方法を検討する。	①日常的な学校の状況等について、HPでの情報発信の回数が昨年度を上回ったか。(R3年度80回) ②地域や中学校を対象に本校の具体的な情報を伝えることができたか。	行事や日常についてHPは63回の発信を行ったと共に、紹介ページの更なる充実へ繋げた。「生徒の声やリアルを届ける」をテーマに定時制便りの発行、課題研究での宮原団地との連携、母校訪問の再開や生徒の声をまとめた広報誌の作成等を通じて情報発信の種類増加を図った。	A	社会状況や受検者数の変化に対応した「各中学校へのアプローチ」に加え、より多くの人々の目に留まる広報媒体の研究を行う。より広範囲に本校の取組を発信すると共に、100周年行事へ向け、発展的に生徒と地域が関わる機会や取組を模索する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和5年3月16日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業実践により生徒の興味・関心を引き出すことにより積極的に授業に参加し、意識の向上につながっていると感じた。 ・授業の資料等が自宅でも携帯等を通じて、閲覧できる仕組みはありがたい。 ・定時制の性質上、帰宅後に家庭学習は難しい。放課後の補習も遠方の生徒は参加が難しい。早く学校へ来て学習する習慣がつけてもらえるとありがたい。 ・卒業後も自ら技術技能を習得しなければ社会についていけないことは明白な時代になった。自主学習の習慣化が40%弱の結果だったが、「勉強の仕方」を身に付け、「一生勉強だ」という意識を植え付けてほしい。学校外等での体験学習を少しでも取り入れてほしい。 ・先生も手厚く、子供も楽しく生活している。 ・定時制の特性上、基本的生活習慣の確立が必須課題である。一人ひとりに向き合い、支援することで自信が生まれて、明日への活動の糧になるのではないかな。 ・生徒自身での時間や体調管理はまだ弱さを感じる。欠席や遅刻の原因は何かを把握し、仕事先とも連携が図れるような仕組みがあると良いのではないかな。 ・定時制が今落ち着いている点から本校の支援体制が認知されてきている。ICT活用を含めた新しい支援体制を考えていただきたい。生徒指導案件が0件は素晴らしい。より中学校へアピールしたい。 ・自主自律を通じ、自らの状況を十分に判断できる助言・支援がより必要であると考える。 ・キャリア教育の一環としてインターンシップを取り入れることができる学校になってきている。2年の後半から実施できたら良いと思う。 ・「選択科目説明会」等では次年度の科目説明やコースによる学習内容の説明で止まっている。自身の将来に繋がるため、自身のコース選択や資格が繋がる具体的な方向性まで示すことができると良いと思う。加えて進路に関する情報や取組内容が保護者側へも欲しい。家庭でも進路に関する話題のきっかけとなる。 ・学校の情報発信が進路先を考えている中学生の目にとまると考える。在校生の声は重要なポイントである。 ・HPの更新回数や地域との連携などの常に最新の情報を発信する取組は良いと思う。本校定時制を必要としている家庭や生徒は必ずいると思う。情報発信の種類もSNSなどを利用できると多くの人に情報を届けられるのではないかな。 	